



# 児童期のショートステイ サービスとしての役割

子ども発達支援センターフレンズあすわ(以下:センター)に児童対応のショートステイ(以下:短期入所)があることをご存知ですか。

Q:どのようなときに利用され、どのようにして過ごしているのだろう?

そのような疑問に対して今回、短期入所の紹介およびその果たす役割についてお伝えしていきます。

## 短期入所について

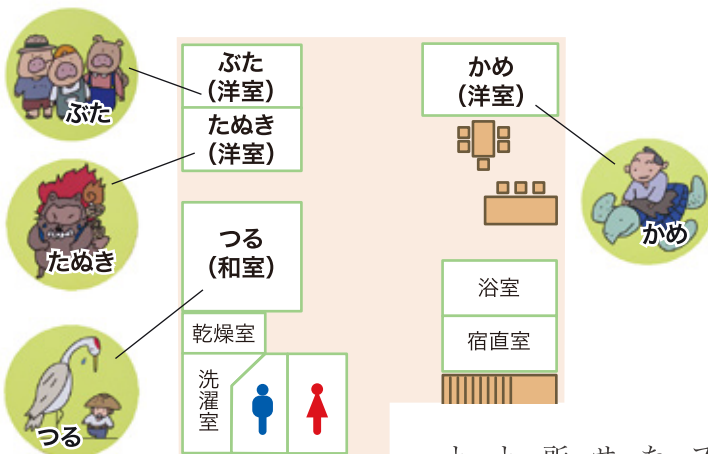
短期入所というと、高齢者の介護をイメージされることが多いかと思いますが、障がい者・児においても利用できるサービスです。

障がい児の短期入所においては、成人期・高齢期とはまた違った背景や目的があり、それらに対する配慮が必ずやります。

## 短期入所の紹介

センターの短期入所のご利用にあたっては、センターの児童発達支援あるいは放課後等デイサービスをご利用されている方とさせていただきます。

その理由は、ご家族のもとを離れて泊まることは不安も大きいため、少しでも安心して泊まっていただけのように、顔馴染みの日中サービスのスタッフが対応するようにさせていただきます。いただいているからです。日中サービスのスタッフが短期入所のスタッフを兼ねていることもあり、営業日は週末のみとさせていただきます。



営業日：金・土・日  
(12/29～1/3は除く)  
営業時間：17:00～9:00  
定員：1日の利用定員は5人まで  
利用料金：通所給付対象  
(※食事代や光熱費等は別途料金)

## 家族支援について

児童期の支援は、ご本人への支援はもちろんですが、ご家族への支援も重要だと考えています。障がいの受容、子育てにおける相談やアドバイス、制度や地域資源についての情報提供など、その支援は多岐に渡ります。ご家族が健康で温かな親子関係を支えていくためにも、私たちが行っている短期入所もまた、ご家族の暮らしを支える重要なサービスです。

## 児童期における短期入所利用の目的

子育てをされているうえで、ご家族はいろいろなご苦労をされています。なかなか寝つかなかったり、夜中に起きてくることがあったりするために、睡眠が十分にとれず

体調を崩しやすい、家ではかんしゃくが強く、大声を出すこともあるから、イライラが募ってくる、きょうだいに十分に接してあげられていないなど、さまざまな声を伺います。そのような毎日の育児に向き合うなかで心身ともにお疲れになることも・・・。

そのようなときに短期入所をご利用されることで、心身のリフレッシュを図ったり、ごきょうだいのいる方は、その子との時間を大事にされたりしています。

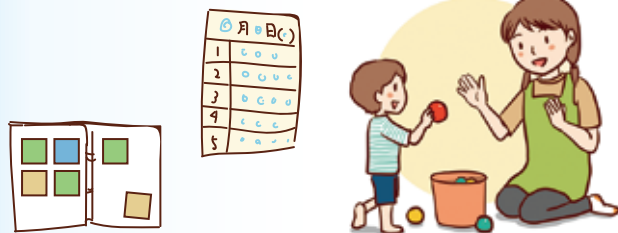
そして、宿泊を頑張られた利用者の方を再び温かい気持ちで迎えにいられたご家族の「頑張ったね」と伝える姿に、ご利用の方がほほ笑み返す。そこに、健やかな親子関係や穏やかな家庭生活の回復を感じています。

また、学齢期後半のご利用の方については、将来を見据え、親元を離れて生活する経験となり、成人期につながっていく支援と言えます。



### <ご利用に対するご家族の感想>

- ・「きょうだいとじっくりかかわれる時間がもてるようになりました。きょうだいもこの時間を楽しみにしてくれています。本当に助かります」
- ・「最初のころは泣くこともあって、つらく感じることもあったが、日々たくましくなっていく姿を見て「ありがとう。頑張っているね」と思えるようになりました。以前よりも子育てに対して前向きになっています。」



## おわりに

地域で暮らすご利用の方やご家族を支える1つのサービスとして、センターの短期入所を紹介させていただきました。足羽福祉会では『足羽学園』においても、児童期の短期入所を行っています。短期入所のニーズに対しては、足羽学園と連携しながら取り組んでいます。今後さまざまなニーズに対して、柔軟にお応えしていくよう、益々連携を図りながら、取り組んでいきたいと考えています。

今回紹介した短期入所以外にもホームヘルプや行動援護などのさまざまな福祉サービスがあります。それらのサービスを目的に応じて組み合わせながら、地域で健やかに育っていくことを今後支えていきたいと思っています。